

輝ける母

——(母の日のことに就て)——

古川 茂

母……………。

お母さん……………。

この言葉は、單に言葉だけでも私達の生活に大變強い響をもつてゐます。

夕焼に紅く染つた空を仰いで『お母さん』と呼んでみます、その時、私達の心に甦つて來るものは、いつも幼かつた時の姿であります。母の背に無心に寝つた姿であります。

暮かゝつた空——、ねぐらを急ぐ小鳥の群——、かすかに響く晚鐘——、それはみんな背にむづかる愛兒の爲に、心から祈りつゝ夕映の下に子守唄を歌ふ、よき母の背景であります。

坊やはよい子だ

ねんねしな

坊やお守は

何處へ行つた

あの山越えて

里へ行つた

里のお土産に

何貰ふた

デンデン太鼓

シヤウの笛

この歌は凡そ人の子の誰れもが憶ひ出の奥にしつかりと秘めた懐しさであります。

善き事の一切は、この歌の調から生れて、母の限りなき

寛い心に育てられ、靜かに心から心へと傳へられて來ました。

母の子守唄——。

この歌に秘められた心こそ、何にも増して根強い教であります。

この教には理論的なことが無かつた筈です。

また『ねばならぬ』と云ふ命令的な冷たさも無かつた筈です。

たゞ祈りによつて生れた愛の教へでありました。

今でも、仕事に疲れて、やつと家庭に歸つた私達が、解放された氣安さに、縁に座つて夕焼の空を眺めながら遠に歌ふ子供達の聲を聞きますと、まさしくと浮んで來るのは矢張り母の歌つてくれた子守唄です。

そうして其の幽かな聲は、古い記憶の扉を破り、淡い哀愁のリズムに乗つて、靜かな黄昏に懷舊の情をそよります。

空と母、子守唄。

この瞬間に甦る母の姿こそ『聖母マリア』の姿にも似て淨く、私達の童心を揺り動かして、社會の繁雜さに疲れた

私達を慰めながら、やがて反省を興へて行きます。

この力ある子守唄。

世の母と云ふ母の歌つた子守唄。

それが如何に單調な調であつたにもせよ、歌ふ母の聲が悪かつたにもせよ、これ程私達の生活に喰入つて力強く、印象深いものはありません。それは母が名歌手で無く『母』であつたからです。胸に燃え盛る愛を満ち充ちた母であつたからです。

母はこんなにも、愛兒の爲に總てを捧げ盡してくれました。

また如何なる苦しい犠牲をも拂つてくれました。

これこそ、私達がほんたうに感謝せねばならないことです。

『母の日』はこの總てへの感謝を捧げる爲に生れたものです。

勿論、これは日本に於て始めて生れたものでなく、古く英國で行はれてゐたものでありますが、最近日本でもこの運動をする様になつたのであります。

昔、英國の子供達は親の膝下を離れて、或る學業に、或は實業に就いても必ずこの日にシムネル（パイ）の一種と云ふお菓子を持つて母の下に歸り、一日楽しく母と語らひました。

それは丁度、日本の『蕨入り』の様に行はれてこれを『^{アザリングサンデー}母親訪問日曜』と呼んでおりました。

これが今から凡そ三十年前から米國に於ても行はれて來たのであります。勿論、初めはほんに一部の教會のみで行はれてゐたのですが、やがて學校に行はれ、會堂に行はれ街頭に行はれて、遂に全米國の年中行事の一つとなつて、然も非常に大切にされたのであります。これが現在の『母の日』*Mothers day*で、何時も五月の第二日曜とされておりました。

日本では十數年前、ミセス、ドレパーが提唱しまして一部の教會にこれを行はしておりましたが、過去五年、私達の『葡萄の家』がこの運動を一般化せんと志しまして、年々この運動に努力して來ましたが、昨年、遂に宿望たる一般化を具體化し、街頭に呼んだのであります。

この運動に共に努力された團體には『日本全國母の會』があり『母の日會』があります。

この運動がかうして次第に盛んになつて來ました事は、ほんたうに喜ばしい事であります。

この日、私達は特に母を慰め、母を喜ばし、遠い母には手紙を書き、亡き母には墓參をすると云ふ様に、一日を母の爲に使ふ事を考へたいものです。

外國ではいろ／＼の團體が、或は病院、或は兵營に、或は刑務所に出かけて、母の『シンボル』である紅白のカーネーションを贈つたり、母に贈るべき、美しいカードを配つたり、封筒や用箋や切手を寄贈したり、手紙の代筆までしてあげるさうです。

たとへ刑務所の堅い鐵窓にある罪人でも、この日の運動によつて、まぎ／＼と甦る幼き姿に、温き母の愛撫を憶ひ、その教訓を想ひ浮べて涙するに違ひありません。

母の愛によつて、眞に悔悟した例はあまりにも澤山であります。

をさなくて罪を知らず

胸にまくらして

むづかりては手にゆられし

むかし忘れしか。

春はのきの雨

秋は庭の露

母は涙かわくまもなく

祈ると知らずや

僅でも、吾が子より送られた一枚の葉書、それこそは何物にも替へ難い喜びである筈です。

私達こそ切實に母の愛を考へなければならぬと思ひます。

さて、五月の第二日曜を『母の日』として守ることに就ては種々な意見があり、昨年も他の團體に於て、もつと日本化した實行日を定めてはとの意見もあつた様に思ひますが、私達として考へますれば、かうした運動こそ、日本だけでなく、もつと國際的に行ふべきであると信じて、この國際的な『母の日』を選んだのであります。

その方が自然張合も増し熱も増し、更にこの運動が大きくなるものゝ様に考へたからであります。

母こそ、單に日本の母でなく、世界の母であるべきです。

この意味で、五月の第二日曜を『母の日』とし、本年は、東京市、葡萄牙の家、日本全國母の會、母の日會の四團體が共同主催で行ふ事になりました。この運動によつて益々私達の心に言ひ難い潤ひの與へられる事を信じております。以下に掲げましたのは私が『母の日』の爲に作つたもので全國的に配布された歌であります。

みどりの若芽わかめ丘かみかに萌もえ

あまねく光空ひかりそらに満みつ

今日けふぞ母の日ははひびとに

感謝かんじやの祈いのちり捧こげすや

けふぞたゝへん

こぞりてたゝへん

たゝへん、たゝへん

吾等が母を

茜色染む夕暮を

『あの山越へて』鳥も行く

温情あふるゝ育みは

抱きて歌ふ子守唄

今日ぞ たゝへん

こぞりてたゝへん

たゝへん たゝへん

吾等が母を

慈愛は深く幾年の

さとしに淨き涙あり

不滅の愛は輝きて

曉きの色 香ること

今日ぞたゝへん

こぞりてたゝへん

たゝへん たゝへん

吾等が母を、

文化の光消るとも

母が御胸にまたける

愛の燈は永久に

吾等を護り導かん

今日ぞたゝへん

こぞりてたゝへん

たゝへん たゝへん

吾等が母を